別紙資料⑦

**学校におけるワークショップ等の指導計画例**

監修：岩手大学教育学部　教授　大野眞男

１　校種

　小学校

２　目標

○　表現における，共通語と方言の違いについて理解しようとする。

○　共通語と方言の違いを理解し，それぞれの特質と良さを知り，適切な使い分けができる。

○　登場人物の関係や心情を捉え，聞き手に伝わるように声で表現できる。

○　世代や地域による言葉の違いに気付くことができる。

３　指導の工夫

　言語活動として「アフレコ体験」を取り上げる。

４　本ワークショップについて

本ワークショップは，共通語と方言による表現を通して，それぞれの違いを体感的に理解し，使い分ける力を育もうという狙いを持っている。しかし，方言を話題とする場合，「○○方言」というように広い地域をくくった呼び方をすることが多い。方言学においては共通性を持っているということで区分されているが，実際に使われている言葉を比べてみると，同じ方言として区分されたものの中においても地域ごとに違いが認められることがある。「○○方言ではこう言う」として特定の表現だけを認め，それ以外の表現を否定するのではなく，沿岸部と山間部，商業地域と農業地域といった地域性や，他地域からの流入者の多寡などによる位相という観点から，それぞれの存在を尊重し，地域の地理や歴史について学ぶきっかけとすることもできる。

また，東日本大震災の被災者の中には，共通語で被災体験を語っても精神的な負担が軽くならず，方言で語ったら軽くなったということを言っている人が多くいたことを情報として提供し，方言の持つ機能について考えを深めるということも考えられる。

５　本ワークショップの計画

「方言アフレコ体験教室」の５地域の動画から任意のものを選び，その共通語版を基にして，「登場人物の関係や心情を捉え，聞き手に伝わるように声で表現できる」ということを重点に置いて，アフレコを行う。このとき，一つのストーリーをリレーして担当するグループで，登場人物の関係や心情の理解，人物像などについて共通理解を図るための話合いをする。

次に，共通語版の台本のそれぞれの担当部分を，家族や地域の方に取材して方言に直し，発音を録音するなどして，聞いてまねられるようにした上で，方言でのアフレコを行う。

共通語でのアフレコと方言でのアフレコを行った感覚を比較して，グループ内で「ふりかえり」を行った上で，共通語を使うのにふさわしい場面はどういう場面であるか，逆に，方言を使うのにふさわしい場面はどういう場面であるかを話し合う。

６　評価規準

○　表現における，共通語と方言の違いを多角的に見付けようとしている。

○　共通語と方言の違いを踏まえ，適切な使い分けの仕方を具体的に考えて発言している。

○　グループ内で登場人物の関係や心情の共通認識を持って，登場人物の人物像が一貫したものとして聞き手に伝わるように声で表現できている。

○　家族や地域の方への取材を通して，同じ方言の中でも，世代や地域による言葉の違いがあるという多様性に自ら気付くことができる。

７　指導計画（略案）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
| １ | ○グループ，配役を決める。  ○共通語版を視聴する。  ○登場人物の関係や心情，人物像について話し合う。  ○共通語版のアフレコを行う。  ○宿題の指示。 | ○人数が均等になるようにする。  ○「方言アフレコ体験教室」の共通語版を使用する。  ○それぞれの考えを発表し，良いところを評価し合えるようにする。  ○「方言アフレコ体験教室」の共通語版を使用する。  ○自分の台詞（せりふ）を方言に直して，発せられるようにする。 | ○グループ内で登場人物の関係や心情の共通認識を持って，登場人物の人物像が一貫したものとして聞き手に伝わるように声で表現できている。 |
| ２ | ○共通語のアフレコの復習。  ○方言の台詞をグループで比較する。  ○方言のアフレコを行う。 | ○アフレコの感覚を思い出させる。  ○違いに注意させるとともに，一方が正しいのではないということを確認する。  ○「方言アフレコ体験教室」のアフレコ版を使用する。 | ○家族や地域の方への取材を通して，同じ方言の中でも，世代や地域による表現の違いがあるという多様性に自ら気付くことができる。  ○表現における，共通語と方言の違いを多角的に見付けようとしている。 |
| ３ | ○共通語のアフレコの復習。  ○方言のアフレコの復習，  ○共通語と方言とでアフレコを行ったときの感覚の違いについて，グループで話し合う。 | ○アフレコの感覚を思い出させる。  ○共通語のアフレコで表現した心情等を保つよう指示する。  ○話し合った内容を発表できるよう，話合いを適宜支援する。 | ○共通語と方言の違いを踏まえ，適切な使い分けの仕方を具体的に考えて発言している。 |

８　参考

本指導計画例は，小学校学習指導要領における以下の内容等に位置付けることも考えられる。

○　第２章　第１節　国語　　第２　各学年の目標及び内容

〔第５学年及び第６学年〕２　内容　Ａ　話すこと・聞くこと

（１）話すこと・聞くことの能力を育てるため，次の事項について指導する。

ウ　共通語と方言との違いを理解し，また，必要に応じて共通語で話すこと。

　○　第５章　総合的な学習の時間　　第３　指導計画の作成と内容の取扱い

　　１．指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

（２）地域や学校，児童の実態等に応じて，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習，探究的な学習，児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。

　　２．第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

（５）グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態，地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。